

減らそうごみ 進めよう3R

スリー アール

リデュース
Reduce



マイバッグ etc.



リユース
Reuse

フリマアプリ etc.

3R



リサイクル
Recycle



ごみを取り巻く問題



世界的な経済成長と人口増加に伴い、ごみの量や種類がふえたことで、様々な問題が生じています。特に近年では、プラスチックごみによる海洋汚染や、ものの生産、輸送からごみ処理の過程で排出される二酸化炭素(CO₂)等の「温室効果ガス」がもたらす地球温暖化などが注目されています。このようにごみ問題は、私たちの生活に与える影響も大きく、ごみの減量化が喫緊の問題となっています。

私たちが日々の生活で排出するごみには、一般家庭から排出される「家庭系ごみ」と事業所から排出される「事業系ごみ」があります。

県民、事業者、行政などがそれぞれの立場でごみを減らすとともに、出てしまったごみは、できる限り資源やエネルギーとして有効利用することで、環境負荷の低減や循環型社会の形成を加速していくことが重要です。



プラスチックごみ

プラスチックは、日常生活のあらゆる場所で利用されていますが、その多くは石油を原料としており、燃やすとCO₂を発生させるため、地球温暖化の要因となります。また、自然には分解されないため、ポイ捨てされた場合、環境中に長く残り続けます。特に、海洋に流出された場合は、景観を損なうだけでなく、近年、大きさ5mm以下に細かく破碎された「マイクロプラスチック」による生態系への影響が懸念されるなど、プラスチックによる海洋汚染が国際的に深刻な問題となっています。

こうした中、2020年7月に全国でレジ袋が有料化され、2022年4月には製品の設計・製造から廃棄物として処理されるまでのあらゆる場面で、プラスチックを減らし、資源循環の取組を促進することを目的とした新しい法律が施行されるなど、様々な対策が進められています。

私たち一人ひとりも、マイバッグやマイボトルなどを利用して使い捨て(ワンウェイ)のプラスチック製品を使わない、自治体の資源回収に協力するなどの身近な取組により、プラスチックごみを削減することができます。



動画「カッパの清吉と海のようかい」

[あいちのうみのコト](#)



食品ロス

本来食べられるのに廃棄される食品(食品ロス)は、わが国全体で523万トン(2021年度)と推計されています。これは、飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食料支援量(年間約420万トン)の約1.2倍の量に相当します。

食品ロスは、食品そのものが無駄になるだけでなく、その生産から廃棄までに用いられた多くの資源やエネルギーの無駄にもなります。

日々の生活において、買い物の前に冷蔵庫の中をチェックする、すぐに使う食材はお店の棚の手前から購入する、外食時は食べられる分だけ注文するなどのちょっとした行動で、食品ロスの発生を防ぐことができます。



愛知県作成のポップ。商品は棚の手前から。

[愛知県食品ロス削減](#)



サーキュラーエコノミー(循環経済)

サーキュラーエコノミーとは、「従来のリサイクルなどの廃棄物削減の取組に加え、新たな資源投入量・消費量を抑えつつ、今あるものを有効に活用しながら、新しく付加価値を生み出していく経済活動であり、資源・製品の価値を最大化し、資源消費の最小化や廃棄物の発生抑制等を目指すもの」を言います。これにより、温室効果ガスの排出やエネルギー使用の抑制にもつながり、事業活動の持続可能性を高めることができます。

愛知県では、2022年3月に「あいちサーキュラーエコノミー推進プラン」を策定し、サーキュラーエコノミーへの転換と3Rの高度化による循環ビジネスの進展を図ることとしています。



[あいちサーキュラーエコノミー推進プラン](#)

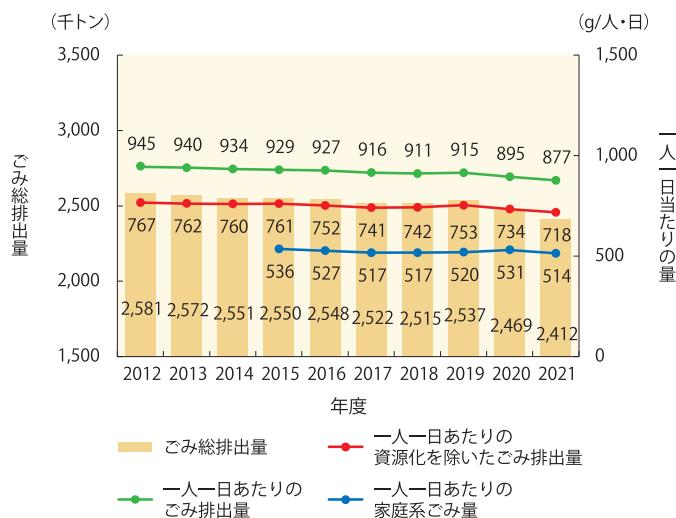


愛知県のごみの現状

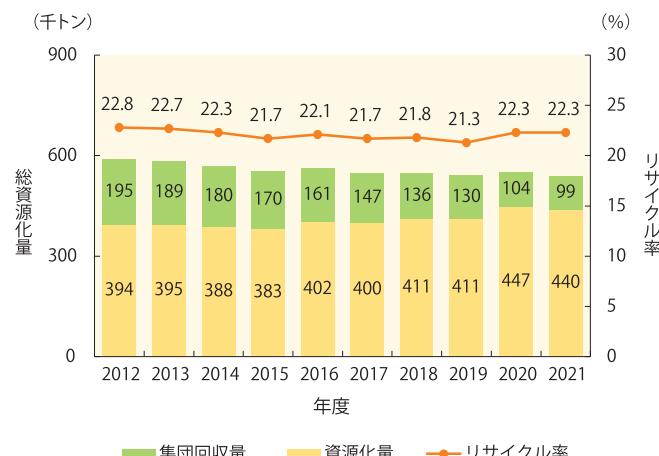


愛知県全体で排出されたごみの量は、2021 年度では 241 万トンに上ります。これを県民一人一日当たりに換算すると 877 グラムになります。このうち、リサイクル等で資源化されるものを除くと 718 グラムとなり、さらに「事業系ごみ」を除いた「家庭系ごみ」の量は 514 グラムとなります。

ごみ処理費用は、愛知県全体で 927 億円となっており、県民一人当たりでは年間 12,299 円かかっています。



(資料) 環境局 一般廃棄物処理事業実態調査(2021年度)



(資料) 環境局 一般廃棄物処理事業実態調査(2021年度)

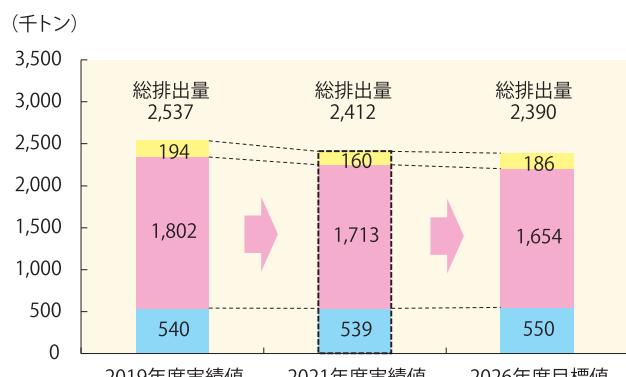
ごみを減らそう ~2026 年度までの削減目標



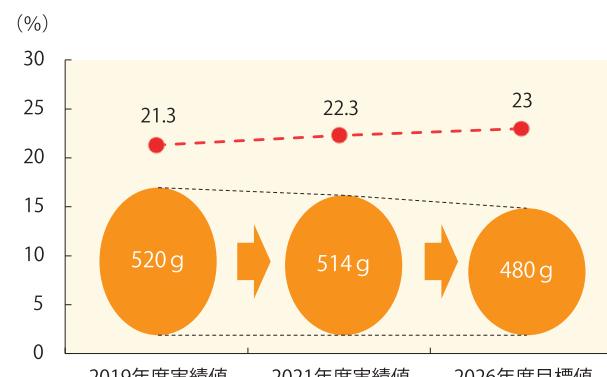
愛知県では、「愛知県廃棄物処理計画」において 2019 年度を基準として 2026 年度までの削減目標を定め、県内市町村と連携して、分別収集・資源回収の促進、各種啓発活動の実施、事業者等への指導など、ごみ減量化・資源化に取り組んでいます。

2026 年度までの削減目標

	2019 年度	2026 年度 (2019 年度比)
ごみ総排出量	253 万 7 千トン	239 万トン (約 6% 減)
一人一日あたりの家庭系ごみ量	520 グラム	480 グラム (約 8% 減)
リサイクル率	21.3%	23% (約 2 ポイント増)
最終処分量	19 万 4 千トン	18 万 6 千トン (約 4% 減)



※数値は四捨五入のため、合計値が一致しないことがある。



(資料) 環境局 愛知県廃棄物処理計画(2022年度～2026年度) 及び 一般廃棄物処理事業実態調査(2021年度) から作成

ごみを減らすためにできること（3Rの取組）



ごみの減量化・資源化のため、私たち一人ひとりにできる行動を英語の頭文字から 3R (Reduce・発生抑制、Reuse・再使用、Recycle・再生利用) といいます。このうち、リサイクル（再生利用）は分別収集や再生工程などに多くのエネルギーが必要です。まずはリデュース（発生抑制）やリユース（再使用）に重点的に取り組み、ごみになるものを減らすことが大切です。

身边でできる3Rの取組

Reduce (リデュース 発生抑制)

- 計画的に買い物をしよう
- 環境に配慮した商品を選ぼう（再生商品、詰め替え商品）
- マイ○○を持ち歩こう（マイバッグ、マイボトル、マイ箸）
- 生ごみを減らそう（3 キリ活動）**使いキリ 食べキリ 水キリ**



Reuse (リユース 再使用)

- 繰り返し使えるものを選ぼう
- 修理できるものは修理して大切に使おう
- 使わなくなったら欲しい人に譲ろう
フリマアプリ、バザー、リサイクルショップなども活用！



Recycle (リサイクル 再生利用)

- ペットボトルや紙類などの資源ごみを分別しよう
- 集団回収やスーパーなどの店頭回収も活用しよう
- 生ごみから堆肥を作ろう
機材の購入補助や貸出しを行っている市町村もあります



!**リチウムイオン電池を使用した製品は適切に処分しましょう**

リチウムイオン電池に強い力が加わり破損したり変形したりすると、内部の物質が化学反応を起こして発火するおそれがあります。

環境省の調査では、ごみ処理施設やごみ収集運搬車でリチウムイオン電池等が原因と考えられる火災が、2020 年度に全国で約 1 万 3 千件発生しています。

お住まいの市町村の分別ルールを確認し、適切に処分しましょう。

!**家電4品目や小型家電は適切にリサイクルしましょう**

家庭用電化製品（家電）には、鉄や銅、金や銀などの金属類やプラスチックなどリサイクルできる素材が多く使われています。

テレビやエアコンなどの家電4品目に加え、パソコン・携帯電話など小型家電についてもリサイクルを進めていく必要があります。

お住まいの市町村の回収品目や回収方法を確認し、適切にリサイクルしましょう。

!**無許可の不用品回収業者には引き渡さないようにしましょう**

近年、家庭から出る不用品（ごみ）をトラックで戸別回収する無許可の不用品回収業者が増えていますが、家庭から出る不用品の回収には、市町村による「一般廃棄物収集運搬業」の許可が必要です。

不用品回収業者の中には、許可を持たずに、集めたものを不法投棄したり、海外に輸出して不適切に処理したりする業者もいます。また、無料回収をうたいながら、高額費用を請求される事例もありますのでご注意ください。

👉 生ごみの8割は水分です

家庭系の燃やせるごみ（可燃ごみ）のうち、3分の1程度が生ごみですが、生ごみは約8割（重量比）が水分です。

水分をよく絞ることで、ごみの減量化につながるとともに、ごみ収集や焼却の際のエネルギー効率が向上するなど、環境への負荷を低減することができます。

👉 ワンウェイプラスチックは使わない

使い捨てのプラスチックは、資源の無駄につながるため、社会全体で使用を削減していくことが求められています。

買い物の際には、あらかじめマイバッグやマイボトルを用意したり、ストローやフォーク・スプーンなどは必要がないときは、断りましょう。

また、旅行に行く時は、歯ブラシやカミソリなどを持参すれば、ホテルや旅館で使い捨てのアメニティを使わずにすみます。

👉 リサイクルマークの付いた蓄電池

リサイクルマークの付いた蓄電池は、一般社団法人 JBRC 協力店（家電量販店等）でも回収を行っていますので、ご利用ください。



ニカド電池



ニッケル水素電池



リチウムイオン電池

👉 家電4品目と小型家電のリサイクル

家電4品目	対象は、テレビ、エアコン、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・乾燥機の4品目です。 ● 家電販売店に引き取りを依頼、又は郵便局でリサイクル券を購入し、指定引取場所に持込み ※リサイクル料金と運搬料金の支払いが必要です。 ※指定引取場所は「家電リサイクル券センター (RKC)」の HP で確認できます。
小型家電	パソコン、携帯電話をはじめ、ほとんどの家電製品が対象となります。 ● 回収品目や回収方法は市町村ごとに異なります。（ボックス回収、ステーション回収、イベント開催時の回収など） ※パソコンは、メーカー・パソコン 3R 推進協会でも回収しています。

詳しくは、お住まいの市町村にお尋ねください。